



年頭挨拶

代表理事組合長 山本 武
やまもと たける

平成二十四年の年頭にあたり、謹んでご挨拶を申し上げます。昨年中は広酪に対しまして、ご理解とご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。本年も相変わらぬご支援の程宜しくお願い申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、三月十一日に発生しました「東日本大震災」は、多くの被害をもたらし、生命や財産を一瞬の内に失うなど、自然災害の脅威を実感させられました。

また、T P P(環太平洋経済連携協定)参加にあたっては、国を二分する議論が錯綜しているにも拘らず、政府は交渉参加に向けての事前協議に入ることを表明致しました。国民的な議論の過程を得ないままに関税の撤廃をすることは「食の安全・安心」を脅かすことになりかねません。これまで日本の食糧は自給率四十%と先進国では特に低く、これ以上に海外の食料に依存することには疑問であり、農業を生業としている我々の将来が不安に一

蹴されてしまいます。今後も関係団体と連携し「交渉参加断固阻止」を貫き、行動を継続して参ります。

日本経済は、デフレ基調の長いトンネルに入ったまま、個人消費が低迷する中であって、少子高齢化や雇用不安は一層深まる状況にあります。

一方、生乳生産状況では、(社)中央酪農会議が二十三年度計画において、震災や猛暑による生乳生産の低下、酪農家戸数の減少など様々な要因によって、計画未達を懸念し、目標値の下方修正を行いました。よって、二十四年度の生乳生産体制は、これまでのJミルクの需要動向によらず、独自目線によって、二十四年度を初年度とする向こう三年間を見据えた計画生産で取り組む方針を示し、その基準は二十三年度の実績数量をもって定め、その期間は減産型計画生産を実施しないことを決めております。

これを踏まえて、中国生乳販連におきましても、HOSTY生乳生産基盤復元計画を作成するため準備に入っており、中国五県の会員団体とともに年間三十万トンの復元確保を構築して参ります。

広略割当分につきましては、年間五万八千トンの生産目標数量を示し、需要に因應することが必要となりますが、需要期と不需要期における乳価格差も課題となってくるものと思われま。

従いまして、生乳基盤確保対策として、3M事業のこれまでの補完的役割は大きいものがありますが、今後は外部導入だけでなく、組合員個々の優良雌牛による後継牛確保に努力して頂く必要があります。

乳質改善対策は、これまで様々な方法により取り組んで頂いておりますが、二十三年度において十分な成果が現れておりません。中国生乳販連における各会員間において改善目標値に達していない状況にあります。消費者に安全・安心な牛乳を届ける使命のもと、体細胞数や細菌数等の改善を、今後の大きな課題として取り組む必要があります。又、昨年「簡易体細胞測定器」を各事業所に設置しておりますが、有効活用した改善に協力をお願いします。

ポジティブリスト(生産履歴記録)制度の記帳・記録は、「もっと簡易にならないか」といっ

た意見を頂戴してりましたが、二十四年度から様式を変更することになっております。全ての生乳出荷組合員に記帳をお願い致しますので、記録の無い組合員に対しては、受乳拒否も含めて検討されておりますので徹底をお願いします。

指導体制の強化につきましては、色々ご意見を戴いておりますが、十二月一日付けで経営指導係二名を増員しております。乳質改善や簿記記帳等の経営相談に応じるようにしております。

みわ・庄原両TMRセンターの統合を協議しておりますが、現有施設の老朽化に伴い製造体制の効率化と醜酵が安定した良質な飼料生産をしていくために「ラップ梱包方式」への検討も進めております。利用組合員の利便性も考慮にいられて、更に検討を加えて参りたいと思っております。

我々役職員は、一丸となって情報収集に積極的に取り組み、将来に向けて方向を見誤ることなく「確かな組合」「信頼される組合」として組合員とともに発展していかねければなりません。この使命を達成できるよう努力して参りますので、ご支援の程をお願いします、年頭のご挨拶と致します。

あけまして
おめでとうござい
ます

今年一年
宜しく願います



■理事 檜垣義雄

■理事 檜垣義雄
昨年は東日本大震災が発
生し、多くの方々が被災
され、大変な年でした。
新しい年を迎え、組合員
の皆様にとりまして、健
康で素晴らしい年となり
ますよう祈念申し上げます。



■代表理事専務 隅屋寒三

■代表理事専務 隅屋寒三
組合は環境変化、酪農経営
の窮状に対処する組織とし
て、先ずは中期計画の全て
の目標達成と成果を生み出
します。また、諸情勢の変
化に適宜柔軟に対応し、常
に組合員の皆様からの信頼
を得て、経営安定の貢献に
新たな決意をもって取り組
みます。



■理事 温泉川寛明

■理事 温泉川寛明
近年、予期せぬ病気が
次々と発生し、生乳生産
チェックシートや家伝法
改正等畜産業を取り巻く
環境がより厳しくなって
います。食の安全・安心
から国産自給粗飼料の増
産、自家育成等をしっか
りとして足腰の強い酪農
経営を続けましょう。



■理事 藤井鉄男

■理事 藤井鉄男
農業を取り巻く環境は、
相変わらず厳しさが続く
と思われれます。昨年、私
達の地域では農作業中の
不慮の事故で二人の尊い
命を失い、廃業へとつな
がり淋しい年でした。健
康で酪農が出来るよう頑
張りましょう。



■理事 鈴木道弘

■理事 鈴木道弘
昨年のような大災害が発
生すると人間や人が創造
してきた物が如何に虚し
いかを実感します。改め
て時間を大切に！身の丈
に合った経営を！私達、
広酪の常識を疑ってみる
発想も必要だと痛感しま
す。



■理事 大上浩也

■理事 大上浩也
辰には「整える」という
意味があるそうです。本
年は我が身の周りをしっ
かりと整え、前向きに進
んで行こうと思っております。
微力ではありますが
が、組合に貢献できるよ
う努めて参ります。



■理事 道下伸雄

■理事 道下伸雄
酪農はT P P問題等、試
練の年の幕開けとなり、
今だ激振の年が続いてお
りますが、故・松下幸之
助氏の著書に「目標を見
失わず、笑顔で進めば必
ず道は開ける」とありま
す。本年私は、皆さんと
共に笑顔で前進の決意で
す。



■理事 川角晴俊

今年、昨年の大震災や経済不況を克服して良い年になりますよう祈念しています。厳しい酪農情勢ですが、組合員のための組合であるように理事を務めていきたいと思っています。今年も宜しくお願いします。



■理事 柿原徳則

今年「辰年」で「龍」に例えられ、「龍」が天に昇るがごとく、景気が良くなることを期待しております。一次産業は厳しい情勢ですが、『自立』を目指していきましよう。



■理事 岩竹重城

辰年は向上心をもって目標を立てて進む年だそうです。今年酪農の基本に忠実な経営を目指し、周産期病対策として、分娩前後の飼養管理に重点を置き、強肝剤投与、低カル防止等で乳量の確保をし、自給粗飼料と育成牛の確保で足腰の強い経営を行います。



■監事 沖正文

「昨年のようにあるために私たちは変わる」と被災地の方がおっしゃっていました。私達も今の幸せに溺れず、苦難をチャンスに変える挑戦をしていきたいと思います。



■代表監事 池田道明

酪農は後継者不足、高齢化、経営不振等の問題解決が出来ないでいます。今年こそ組合の基本に添って、役員、組合員の皆様のご協力、ご指導を頂きながら、より組合員の利益につながる組合運営となるよう監事として努力したいと思えます。



■理事 榎野大樹

震災後の一日も早い復興を願うも原発事故・放射能問題で道程険しくTTP問題は交渉参加に向けて協議に入ると表明、迎えた二〇一二年も先行きが見通せない混乱の中、再認識された「絆」を力に困難を乗り越えていきたいと思います。



■監事 林 智行

昨年の言葉は「絆」でした。酪農家が年々減少する中で、益々酪農家同志、そして、組合運営の絆を大切にしたいと思えます。厳しさを増す酪農情勢ですが、組合、酪農家同志が絆を深めて、共に栄える年になるよう願います。



■監事 上村 一

平凡な願いですが、今年は大災も無く、平穏であってほしいと願っています。また、龍年の勢いで日本の経済も少しは上向きになってほしいと思います。